

令和6年度
事業計画

学校法人 愛知医科大学

令和6年度事業計画

令和6年3月18日

I はじめに

私たちの生活様式に大きな変化をもたらし、本学においても学生生活や診療活動に大きく影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月に感染症法上の位置づけが「2類相当」から「5類」に引き下げられました。これに伴って、社会経済活動の正常化が進みつつあり、日常生活も概ね元通りとなる、いわゆるアフターコロナの段階となりました。

このような明るい兆しが見られた矢先に世界的な物価高騰が起り、医療の現場にも影響が及んでいましたが、法人運営においては、この値上がり分を転嫁・吸収できる要素が非常に限られており、負担が増すばかりとなっています。

新型コロナウイルス感染症による病棟閉鎖や職員の罹患などの影響で、診療体制に支障が出る状況が続きましたが、一方でこの期間に診療機器の整備やスタッフの拡充を推し進め、将来の大きな成長につながる事業をスタートさせながらアフターコロナに向けた準備を進めてきました。令和6年度はコロナ期間中に蒔いた成長の種が、開花・結実する年と位置付け、収入は600億円を突破する予算を計上するに至りました。

これは、非常にチャレンジングで目標的要素の強い収入計上ではありますが、単に数字を積み上げただけではありません。具体的な施策として、50周年記念事業のうちのリハビリテーション医療の拡充として、本院リハビリセンターの増築を完了させ（令和7年1月稼働）、現在の3倍の広さになることに合わせて、セラピストの継続的な増員を継続していきます。

また、救急体制の改革・発展により、救急のリーディングポジションの獲得をめざして、救急管理棟とTACU（急性期観察病床14床：令和6年6月稼働）が開設し、救急車年間9,000～10,000台を受入目標と掲げるなどの事業が含まれています。

さらに開設4年目を迎えるメディカルセンターと本院との連携を生かし、大腿骨近位部骨折、心不全の循環型シームレス医療がスタートし、急性期、慢性期、回復期までの一貫したシームレスな診療・治療が提供できる体制を構築し、QOLの向上、予後の改善、再発予防に向けた取り組みを展開します。

教育活動の推進では、医学部において令和5年に実施された第117回医師国家試験で開学以来初めてとなる新卒合格率100%が達成されたので、引き続きこの支援体制を継続していきます。看護学部においても、看護師・保健師ともに100%合格という高水準を維持するとともに、看護学研究科博士課程設置の令和7年度開設に向けて準備を進めます。

令和6年度は、新たな5年間の中期計画がスタートする年になります。「財の独立なくして学の独立なし」と言われるように、財政的な基盤のないところに教育や研究あるいは診療の進化発展は望めないことから、財政基盤の確立はすべての要素の基礎となります。事業全体の8割を医療収入が占める本学においては、まずは医療収入基盤の確保ですが、外部資金の獲得、寄付金の獲得に向けた事業が始まっていくことなど、今後を占うスタートの年となります。

令和6年度は、これまでの取り組みや成果を基盤として、愛知医科大学が更なる成長を遂げるための活力を湧き立たせることで、中期計画に基づく持続的イノベーションと5つの

Strategyをキーワードに、持続可能な発展を目指します。

学是「具眼考究」

医療においては、超高齢社会や人口減少に伴い、日本の医療そのものが大きく様変わりをしていること、教育においては、グローバル化の流れを受けた医科系大学の教育が大きな転換期を迎えたこと等から、職員・学生にとって、新しい時代に即した「建学の精神」の実現・実践に向けて、心の拠り処となる「学是（基本理念）」が必要となり、全学的な議論を経て、新たに学是「具眼考究」が制定されました。

ここでその深意を述べれば、「具眼」とは、江戸中期の画家で近年脚光を浴びている伊藤若冲の言葉として知られていますが、「確かな眼」、「見通す眼」、「眼力」、「慧眼」といった意味であり、医学的には「正しくみる」ことを意味します。「みる」とは「診る」、「看る」、「見る」、「観る」、「視る」のすべてを含み、個々の患者の正確な病態把握とともに生物学的、心理学的、経済的、社会的なすべての視点に立ち包括的、全人的に患者を把握する感性を意味します。更に卓越した研究・教育それに大学の正しい未来の方向性の洞察には「具眼」が必要です。「考究」とは、「具眼」によって得た神髄を深く考え、それに対して正しく対処して究めることを指します。

II 予算編成方針

令和6年度予算は、次の編成方針に基づき編成作業を行いました。

1 基本方針

令和になってからの本学における経常収支差額は、令和元年度3.8億円、2年度9.6億円、3年度15.8億円と順調に伸ばしてきましたが、令和4年度の決算では550億円を超える事業規模としながらも、医療収入に伸びを欠き2.6億円に落ち込み、事業収支ではさらに厳しく4,200万円と何とか黒字を維持できたという結果でした。これは、当初見込んだ収入予算は達成できなかった中、学修環境の整備、大学病院としての機能向上のための機器の更新、整備など、将来に向けての対策の手を緩めることなく講じた結果でもあります。新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受ける中でも怯むことなく努力を積み重ね、財政基盤を整えてきたところではありますが、昨今の物価高騰による多岐にわたる経費増、人員不足の影響も決して小さくありませんでした。

こうした状況に対応する手段ですが、収入面で経費増を転嫁する余地は、本学の収入の大きな要素を医療収入が占める状況下では限られ、そのほかの収入要素についても他機関とのバランスを取る必要があるなど、直ちに対応策をとれるようなものではなく、引き続き厳しい環境が続いていくことが予想されます。

このような状況下ではありますが、愛知医科大学の次の50年に向けての改革は何としても成功させねばなりません。目下、様々なプロジェクトが展開されており、メディカルセンターの開院、眼科クリニックMiRAIの設置に始まり、医心館など学生生活に関連する環境の整備も盛り込まれています。今注目のリハビリ医療の充実に向けてスタッフを増強しつつ、具体的な施設の改修に入ります。

また、がん医療の推進や化学療法室の活性化など一段と力が入ります。同時に、システム改革として、救急医療体制改革、働き方改革が実行段階に入ります。

さらには、メディカルセンターや眼科クリニックM i R A Iも初期整備期間からいよいよ本格稼働の時期を迎え、更なる発展が期待されるところです。

こうした状況を踏まえ、令和6年度予算編成においては、将来に向けた持続可能な法人運営を進めながら、イノベーションプロジェクトの実現に向けた施策の推進するため、そして、将来に向けた投資的経費や新規事業に取り組む財源を確保していくために、限られた財源を効率的・効果的に配分し、「最少の経費で最大の効果」を挙げるべく、全ての事業について緊急性や必要性、費用対効果を十分に検証した上で見直しに取り組み推進を図る一方で、役割を終えた既存事業の廃止・見直しも手抜きなく取り組むことで、選択と集中による戦略的な財政運営を推進することを基本方針とします。

2 重点事業

令和6年度予算編成は、資金収支予算ベースでは経済変動の影響を柔軟に受け止めるとともに、いざというときの瞬発力となる繰越支払資金の積み上げ目標金額を10億円とし、事業活動収支予算ベースでは、経常収支の黒字予算確保を図ることとします。

上記の考えを具体の予算に反映するため、各編成単位においては中長期的な観点に立った次の「重点事業の目的」に合致した計画立案を求めることとし、定量的な成果が見込める事業を優先します。

1 教育機関としての成果が期待できる事業	6 創立50周年記念事業
2 研究支援体制の強化に係る事業	7 イノベーションプロジェクト事業
3 患者を集め、治療し、それを収益に結び付ける病院の機能活性化推進事業	8 大学・病院の機能維持に必要な大規模修繕工事
4 医療収入・薬品材料費・診療材料費・人件費（法人全体）	9 敵に必要となる事業で、予算会議での議論を要するもの
5 私立大学等改革総合支援事業対策	

従来から人員増要求はすべて重点事業として取り扱っております。近年、医療収入増を見込んだ定数増要求について、期待された収入増が無く、結果として処遇改善としかならなかった事例が散見されます。令和6年度の予算編成では、増員要求の審議をより慎重に行い、各部署ごとの配置人員の最適化を優先することとします。

Ⅲ 事業計画の概況

1 教育について

医学教育について、5学年次から予備校の模擬試験の受験させることで、早い段階から、医師国家試験合格に向けた意識付けを行います。

I C Tを用いた講義が増え、講義時に使用するタブレット端末やノートパソコンの使用時間が増えたことで、充電する場所、コンセントの数が不足し問題となっていたことから、学生が常時使用する4つの講義室の机に、コンセントを増設します。

次世代型 Whole Body モニタリング超高度リハシステムを導入し、診療参加型臨床実習の環境及び生理学も含めた臨床研究の場としての充実を図るとともに、重複疾患患者にも安全で高度なリハビリを提供することができ、A Iを駆使した個別医療の推進に資するようにします。

看護学部においては、学生支援の一環として、入学時にパソコンを準備できない学生への貸し出し用パソコンを追加で用意します。また、令和7年度の博士課程開設に向けて、書類審査、実地審査等を経て認可を受けること、開学に向けた体制（募集活動、入学試験、研究室準備等）整備を行います。

2 研究について

シングルセル遺伝子解析を行うための機器が設置後10年を経過しており、不具合が生じているため、最新の医学研究推進を図るため補助金を利用して機器の更新を予定します。

平成30年に選定されて開始した私立大学ブランディング事業である「健康維持・増進を支える次世代先制地域医療：炎症コホート研究」について、引き続き実施します。

3 診療について（本院）

リハビリテーションニーズの増大と多様化に伴い、各診療科からの依頼件数が増加したことによる患者一人当たりの一日の実施単位の減少に対し、スタッフを3名増員し実施（請求）単位数の回復、増加を図ります。そして、更なるリハビリテーション医療の拡充を目指し、多様化や潜在的なニーズに対応するため、増員と合わせて療法室の大幅な拡張を図ります。

特定機能病院において病棟専従の管理栄養士を配置することで、入院栄養管理体制加算の算定が可能となったため、病棟拡大に対応し3名の管理栄養士を採用します。

令和5年度に増設したMR Iを使用し、ダウンタイムが発生しないようにしながら、1台を更新するほか、更新時期を迎えた周術期生体情報モニタや、G C U／新生児情報モニタなどの診療機器を更新します。

4 メディカルセンター

北館に設置されているエアコン（GHP）が2015年に設置されており、病棟などの24時間系の運転時間が標準使用時間を大きく超えており、故障の都度対応するよりも保守委託を契約することで、経済的かつ迅速な対応を取ることができるようにします。

電話交換機が設置後9年経過し、安定稼働寿命を超えており、故障してもすぐに更新ができず、その間電話が使えなくなってしまうため、更新を行います。

5 眼科クリニックM i R A I

眼科クリニックM i R A Iの看護師は、外来、日帰り手術や各種準備業務など多岐にわた

った業務を行う必要がありますが、今後は日帰り手術件数、外来患者数増加に伴い不足が見込まれるため2名の増員を行います。

また、看護師と同様視能訓練士についても、検査数の増加に伴い1名の増員を行います。

IV 令和6年度重点事業一覧

予算編成方針で示した重点事業の目的に合致し、定量的な成果が見込めるものとして予算化した主な事業及び予算額は、以下のとおりです。

1 教育・研究に関する重点事業	予算額
(1) 教育環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学1号館2・3階講義室(202, 301, 302, 303)の机に電力供給用のコンセントを取り付ける。 ・ シミュレーションセンター開設時に購入した高機能シミュレーターの定期メンテナンスを行い、充実した教育設備環境を維持する。 ・ 有効的な実技演習実施のため、小児シミュレーターの購入等を行う。 ・ 学生支援の一環として、学生へ貸し出すことを目的としたパソコンを7台購入する。 ・ 令和5年度から令和10年度までの6年間で次世代のがん対策の基盤を担う専門医療人を養成する教育プログラムを大学間連携によって開発・実施する。 ・ 次世代型Whole Bodyモニタリング超高度リハシステムを導入することで、診療参加型臨床実習の環境及び生理学も含めた臨床研究の実践の場として充実を図る。 	261,520千円
(2) 特定資産を財源とする事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人研究者に対する滞在費助成を実施する。 ・ 医学部若手研究者に対する教育研究奨励助成を実施する。 ・ 看護学部若手研究者に対する研究助成を実施する。 	12,266千円
(3) 研究環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ シングルセル遺伝子解析を行うためのセルソーターとリアルタイムPCRを更新する。 ・ 研究支援業務のDX化を図り、研究管理体制を強化する。 	60,789千円
(4) 研究活動の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 私立大学研究ブランディング事業「健康維持・増進を支える次世代先制地域医療：炎症評価コホート研究」を継続実施する。 	10,680千円
(5) 教育充実活性化対策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育の充実化に貢献した講座等に対してインセンティブを支給する。 	3,500千円

<p>(6) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員に対して多彩な研修を実施し、全教員に対してスキルアップの機会を多く提供し、継続的な教育改革を実施する。 ・ クラブハウスにおいて、劣化により利用しづらい設備を更新する。 ・ 運動療育センターのトレーニングルームフロアにおいて、床の補修工事を行うことでスペースを有効に活用できるようにする。 ・ 看護学部において令和7年度入学者選抜より「共通テスト併用型選抜」を導入することに伴い、「願書受付システム」の改修等を行う。 ・ 将来のリーダー候補者等に対して企業マネジメント等を学び、組織のマネジメントやリーダーシップを学修する。 	8,721千円
<p>2 本院の医療に関する重点事業</p>	<p>予算額</p>
<p>(1) 教員・スタッフの増員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リハビリテーションニーズ増大と多様化に対応するため、理学療法士を3名増員する。 ・ 医療の質、安全性の向上をより高めるために臨床工学技士1名を増員する。 ・ 医師のタスクシフト等を鑑み、診療看護師(NP)を7名増員する。 ・ 愛知県からの委託事業等に係る業務に対応するため社会福祉士・精神保健福祉士を3名増員する。 ・ 体表面補綴外来に歯科技工士を1名増員し、更なる患者の獲得を目指す。 ・ 栄養管理の向上、入院栄養管理加算の算定など可能とするため管理栄養士を3名増員する。 ・ 経過観察入院病棟に配置するための薬剤師を1名増員する。 	107,060千円
<p>(2) 労働環境の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般病棟においてディスポタイプ吸引器を導入し、看護師の負担軽減、患者環境の改善に繋げる。 	23,828千円
<p>(3) 診療活性化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リハビリテーションニーズ増大に対応するため、施設の増設を図る。 ・ 手術件数の確保、GICUにおける安定的な医療体制の維持、麻酔科当直体制の維持を目的とした麻酔科医の確保を図る。 ・ 病院長が入院外来診療報酬請求額の前年度対比を評価指標とし、各種項目を裁量評価することで、成果を挙げた診療科等に病院長インセンティブを支給し、診療の一層の活性化を図る。 	1,645,703千円

<p>(4) 診療用機器の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ MR I 増設事業の一環として、現在使用中のMR I 装置 1 台を更新する。 ・ 効率的な手術室の運営を図るため、ハイスピード滅菌機、Cアームなど整備する。 ・ 老朽化のため以下の装置を更新する。 透析液供給装置 RO装置 腹部エコー GCU／新生児 生体情報モニタ更新 多項目自動血球分析装置の機器更新 周術期 生体情報モニタリングシステム更新 	699,922千円
<p>(5) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際規格の変更に伴い、ISO認定維持のための内部監査員養成セミナーを実施する。 ・ 令和7年度に控える病院機能評価受審事業に向けて円滑な受審体制を構築する。 ・ コンテナ医療ユニット(CoMU)を、大規模イベント時に派遣するなどして活用する。 ・ 感染検査室における非常用電源由来の空調設備を増設する。 	18,423千円
<p>3 メディカルセンターの医療に関する重点事業</p>	予算額
<p>(1) 教員・スタッフの増員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リハビリテーション医療の充実に向けて、理学療法士3名、作業療法士2名、言語聴覚士2名を増員する。 	34,877千円
<p>(2) 病院システム更新関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北館に設置のエアコン(GHP)の保守委託をする。 ・ 故障リスクを回避し、通信の信頼性を維持するために電話交換機を更新する。 	16,014千円
<p>4 眼科クリニックMiRAIの医療に関する重点事業</p>	予算額
<p>(1) 教員・スタッフの増員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日帰り手術件数、外来患者数の増加に対応するため看護師2名、視能訓練士1名を増員する。また、クラーク(医師事務)の増員・待遇改善をする。 	25,272千円
<p>(2) 広報事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学レベルの高度な治療を行う眼科クリニックとして紹介元医療機関の開拓および眼科をお探しの個人への訴求のための各種広告展開を図る。 	10,000千円

5 法人・大学運営に関する重点事業	予算額
(1) 創立50周年記念事業 ・ 創立50周年記念事業の一環として「愛知医科大学創立50周年記念誌」を作成する。	64,672千円
(2) 建物修繕 ・ 構内に張り巡らされている高圧電力ケーブルのうち、経年劣化により更新が必要な3回線を更新する。 ・ 構内全ての電力状態を常時監視し、各棟の系統ごとに電気使用料等の各帳票を蓄積、管理している設備の更新を行う。 ・ 中央棟の全ての冷暖房設備、換気設備、給排水に至るライフラインの供給を監視する設備の更新をし、中央監視の安定稼働を図る。 ・ 3号館(基礎科学棟)の空調設備更新工事を行う。	160,700千円
(3) その他 ・ 経営改革・イノベーション推進事業 理事長直轄の組織である経営戦略推進本部において、1. 地域医療連携推進、2. 救急医療体制改革、3. 働き方改革、4. 財政基盤改革、5. 中長期計画、6. 本学事業部門の再編、7. リハビリテーション学部構想、8. その他 に取り組む。 ・ 電子帳簿保存法へ対応するために財務会計システムの更新を行う。 ・ 駐車場管理システム、機器の更新を行う。	196,213千円

V 令和6年度予算額

事業活動収支予算では、収入61,329百万円（前年度比3.96%増）、支出60,691百万円（前年度比3.56%増）となり、収支差は638百万円の黒字予算となっています。

資金収支予算では、学生生徒等納付金収入4,876百万円、寄付金収入396百万円、補助金収入1,854百万円、医療収入52,247百万円など資金収入合計62,063百万円となっています。

一方、人件費支出22,684百万円、教育研究費支出31,371百万円、管理経費支出1,147百万円、施設関係支出1,187百万円、設備関係支出1,894百万円、借入金等返済支出974百万円など資金支出合計60,787百万円となっています。